

新人大図鑑 2024

今月号は5月11日発売予定（印刷日2024年5月8日）
定価180円（税別）
送料別（送料は別表参照）

美術の窓

THE WINDOW OF ARTS

May
2024
No. 488

NEW 新人大図鑑 2024

全国12大学
卒展レポート

東京藝術大学
多摩美術大学
女子美術大学
東京工芸大学
東北芸術工科大学
金沢美術工芸大学
愛知県立芸術大学
名古屋芸術大学
京都市立芸術大学
京都芸術大学
広島市立大学
崇城大学

インタビュー 大学の在り方

吉見俊哉 鹿島 茂

技法講座 削り出して質感を表現する幻想的な油彩画〈中編〉市川光鶴

公募展便り 人展・白日会展・日本南画院展・独立春季新人選抜展・春季二紀展

295
名
一挙紹介



宮川拓也「市電のある風景」

洋画・学部



吉田樹来「すいぞくかん」

洋画・学部



寺本琴音「タ暮れPOP UP!」

洋画・学部



米満 雅「春となり」

日本画・学部



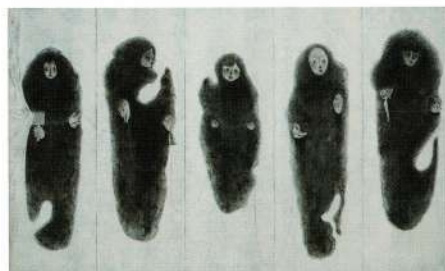
河津若菜「衣着」

日本画・学部



佐々木梨圭「cafe ri」

日本画・学部



酒井貴輝「人生は悲劇」

日本画・学部

Information

創立年：1949年
2023年度学部卒業生数：69人
2023年度大学院修了生数：2人(修士課程のみ)
アート系学部・学科：
【学部】芸術学部 美術学科(日本画、洋画、彫刻、芸術文化、視覚芸術)、デザイン学科(プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、マンガ表現)
【大学院】芸術研究科(美術、デザイン、[博士後期課程] 芸術学)
【住所】熊本県熊本市西区池田4-22-1

崇城大学

崇城大学第21回芸術学部卒業展・第19回大学院芸術研究科修了展
[SOJO UNIVERSITY STUDENT EXHIBITION 2024]
会期 ● 2月20日～2月25日 会場 ● 熊本県立美術館 本館



松尾勇気「緘黙/Mutism」

洋画・修士



竹内心織「映画でハッピーな人生」

洋画・学部



松村盛仁「思い出の帰り道」

洋画・修士



度が高く見えるアウトラインなど、明暗の要所を的確に押さえている。

● 寺本琴音さんの作品は諸調豊かなオレンジ色が目に飛び込んできて心が弾みます。舞台のセットのように、この世界観を演出するモチーフが組み合わさって絵画が完成していくような、わくわく感がありますね。重厚感のあるマチエールの表現が凝っていて、作品に深みを与えているのもポイントだと思います。吉田樹来さんは、水族館の水槽の中を寿司ネタが泳ぎ回っているファンタジーな世界観。特に注目したのは明暗の表現です。キャラクターたちのガラスに反射する影の暗さや、逆光になって一番明

● 松尾勇気さんの幅約4メートルもの大作は、木炭やペーパーパウダーなど様々な粒子の重なりや繊細な線描が絡まり合って、複雑な表情の画面を作り出していて見応えがあります。静寂のなかで何かが現れてはふっと消えていく儚さを感じさせるような、強い印象性を孕んでいます。卒業制作から作品のテーマは一貫していますが、表現の幅が広がりましたね。松村盛仁さんは線を重ねて、独自の筆触分割のようなアプローチをしています。平面的なようで、不思議な立体感も感じさせるのが面白い。卒業制作とは画風が変化しましたが、モチーフに向ける優しい眼差しが作品を通して伝わるのは変わらない魅力だと思います。

● 竹内心織さんは雨の降る歓楽街を背景に人物を配した作品です。看板の文字には春からの新生活の不安を込めているそう、「人間関係」「早起き」「支払い」など、社会人一年目のリアルな生活感が滲みます。ピンクや紫などをメインにした色彩構成のセンスが秀でている印象を受けました。

● 河津若菜さんは衣装や調度などにいくつもの伝統紋様を組み込んだ、強いこだわりが感じられる作品です。上品な色遣いによる優美な作品のイメージによく調和しています。米満雅さんは柔らかなトーンの人物画です。指先の表情がどこか示唆的で、印象性に富む表現に仕上がっていると思います。意外にも人物画の経験はまだ浅いそうで、今後の作品が楽しみです。酒井貴輝さんの作品は同期生をモデルにデフォルメした群像表現。にじみや重なりを生かした絵肌が独特で、こだわりを感じます。

● 5人の糸の持ち方に個性が出ていますね。鉄の存在が不穏さをもっと感じさせて惹き付けられます。佐々木梨圭さんの作品のタイトルは、インスタグラムのアカウント名で、描かれているパフェやマカロン、カヌレはどれも実在するスイーツだそうです。味覚も視覚も楽しませるモチーフを自由自在に組み合わせながら、自分なりの世界観を追求していると思いました。



川島めぐみ

かわしま・めぐみ 2000年熊本県生まれ。崇城大学芸術学部美術学科日本画コース卒業。同大学大学院在籍、新日春会会友。第7回新日春展新日春賞、第10回日展特選。②音楽: STUTS。

楽しい生活の中で、ひとつ感じる重たい感情を絵の中に落とす感覚で描いています。水で洗った岩絵具の上から、また新しい岩絵具をかける事をこれだ！と思えるまで繰り返すことで、自分らしさを表現しています。



銀箔
「Tréfle blanc」 2023年 岩絵具、木炭、墨、
227・3×181・8cm

●崇城大学 日本画コース展 (12月頃 [予定]・SOJO GALLERY)



野原都久馬

のはら・とくま 1988年熊本県生まれ。崇城大学大学院修士課程修了。日展特選、京都日本画家協会創立80周年記念展優秀賞。日展会友、新日春会会友。②本：岡本太郎『自分の中に毒を持て』。

日本画の彩色技法である「彫塗」を中心に制作しています。都市空間の中には、人工物のシャープな線と、人物のやわらかい線が入り交じり、独特なリズムを感じます。そんな日常に潜む事象を形にできればと思います。



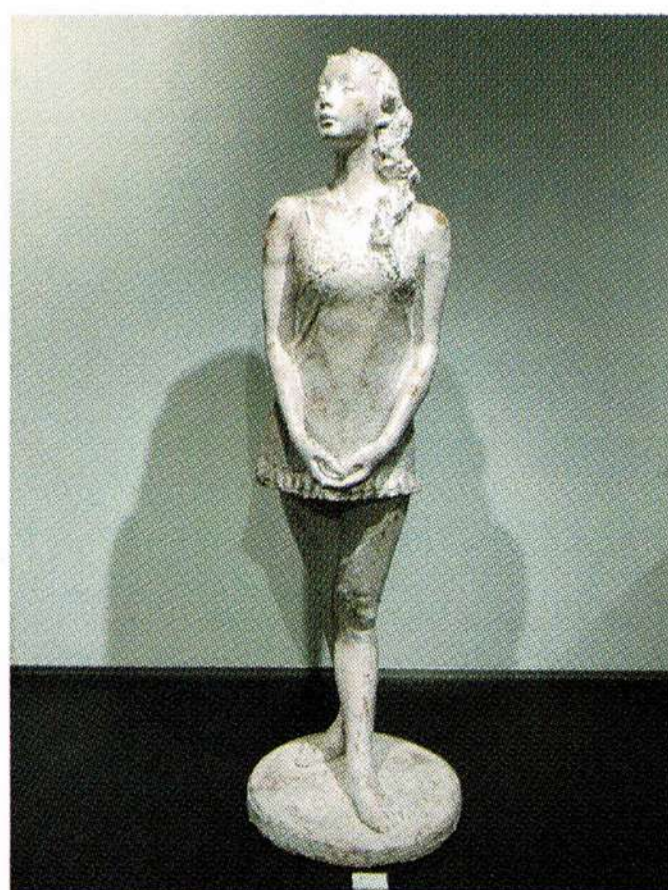
「晴光」 2023年 岩絵具、和紙 91×91cm



藤本美空

ふじもと・みく 2001年熊本県生まれ。崇城大学大学院芸術研究科修士課程在籍。第76回熊本県美術協会展県美大賞、第52回日本彫刻会展覧会新人賞。熊本県美術協会会友。①オーギュスト・ロダン。②漫画：『キングダム』。

待ち焦がれる女性がテーマの作品です。ストーリー性を持たせたいと考え、会う約束をした相手へ想いを馳せる瞬間を表現しました。内から出る心の温かみと1歩前に踏み出すかのようにグンと胸を張った身体の流れはこだわったポイントです。



「rendezvous」 2023年 アクリル樹脂
183×46×65cm

熊谷有展「黎明」。夜明けの街並みの風景を、熊谷作品ならではの格子状の点描の扱いによって描いている。今回特に、空の表現が良いと思う。おおらかな奥行きもあり、また朝の瑞々しいポジティブなイメージも感じられてくる。下方手前のシルエットの街並みが、夜明けの光の変化と共に徐々に風景として構築されていくかのよう
な、穏やかな臨場感が感じられる。



熊谷有展「黎明」

有田巧「雛日誌」中澤弘光賞。森の中に置かれたテーブルを前に座る二人の少年。様々な動物が集まってきた。雛に餌を与えるなどの様子に、見ていて心安らぐ。穏やかに時を過ごす、物語の一場面のよう
な幻想的なイメージの展開が強く印象に残った。



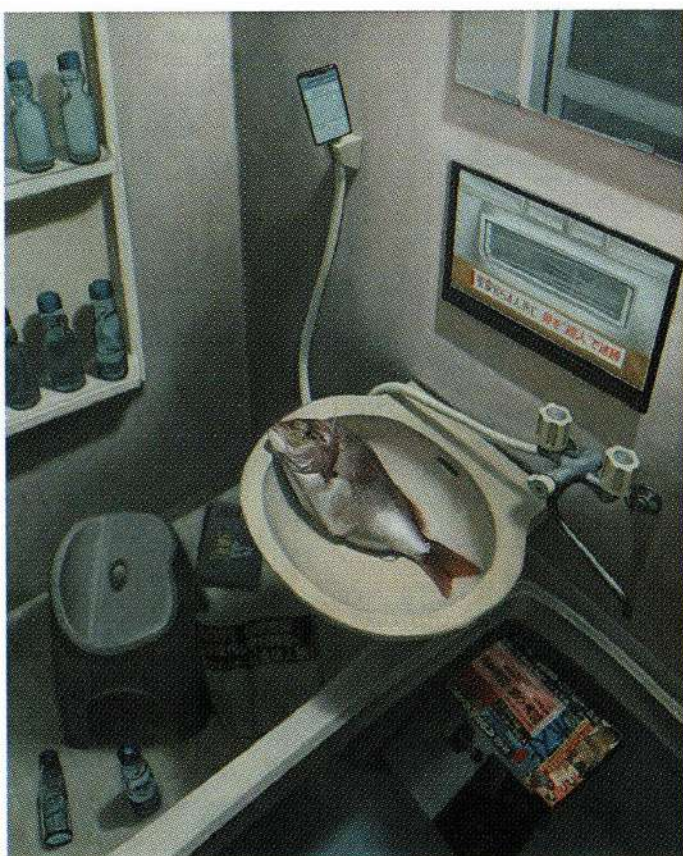
有田巧「雛日誌」中澤弘光賞

田中真季「威風堂々」準会員奨励賞・ギヤラリーアーク賞。片手を腰に当てて旗を持つ一人の子供を中心に画面が構成される。足元から大きく赤の色彩が溢れ、旗が揺らめく。シンバルや太鼓なども見え、まるで楽団の指揮者のようだが、どこか虚しさも感じられて興味深い。そしてまた、その中でも胸を張って直立する子供の愛らしさにも惹かれる。



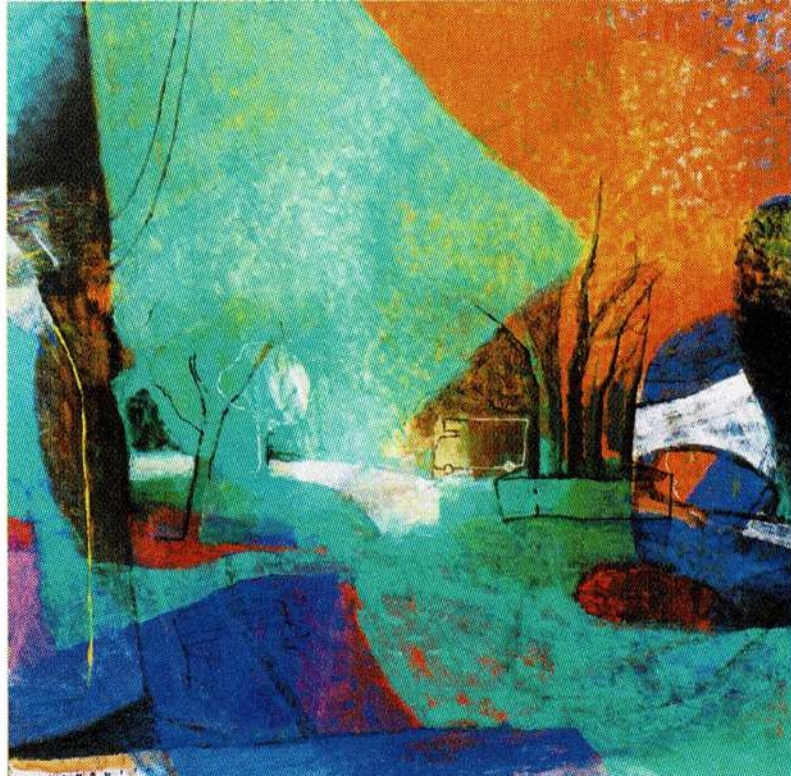
田中真季「威風堂々」準会員奨励賞・ギヤラリーアーク賞

川路桐耶「浴室」一般佳作賞・会友推挙。浴室に雑誌やラムネの瓶そして鯛などが配置されるユニークな構成。違和感を抱くようなモチーフが、日常の中の非日常といったようなイメージを生む。それらを淡々とどこか虚無感とともに描いているところに注目した。



川路桐耶「浴室」一般佳作賞・会友推挙

柳田也寿志「GIFT」。色面的に風景を描きながら、大きな空間を画面に設けている。右の方にオレンジのイメージが立ち上がっていくところが印象深い。夢の中のようにもあり、またどこか失われた風景のようにも感じられ、切なさや希望が共存するかの



柳田也寿志「GIFT」

永田和之「木立が見る夢」。画面を満たしていくかのようなオレンジの光が印象深い。右の方ではひんやりとした翳りも見え、刻々と時が過ぎて行くことで、樹木が存在感を無くしてしまうかのような儚ささえ感じられてくる。それがそのまま作者の記憶の風景とも思われ、興味深い。



永田和之「木立が見る夢」

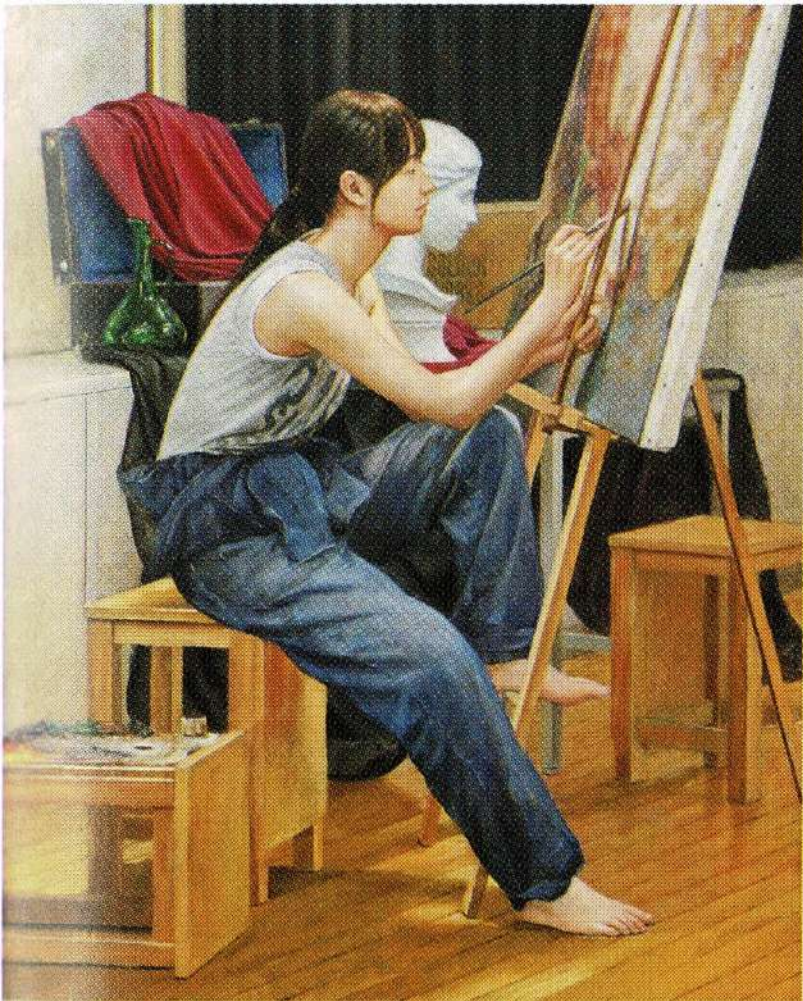
植野綾「深層」。白いレースに包まれるようなイメージで横たわる女性像。仄かに光に包まれながら、どこか夢と現を行き来するかのようなイメージに、美の儚さが感じられた。



植野綾「深層」

小野大輔「制作」 会員推挙。キャンバスに向かつて絵を描く若い女性の姿。その健康的なイメージが実に瑞々しい。縦や横、斜めの線などを巧みに使った、こだわりのあるコンポジションである。女性の顔と重なるような石膏像の存在もまた面白い。

小野大輔「制作」 会員推挙



荒木沙妃「お遊戯会」。劇を演じる子供たちの様子を愛らしく描いている。光が滲むようなイメージの扱いも特徴的で、見て楽しい作品となっている。



荒木沙妃「お遊戯会」

畔田桃子「まんじゅうこわい」。和室で
饅頭を食べる女性の様子がユニークに描か
れている。落語になぞらえた画題ではある
が、何ともポップな面白さである。大きく
口を開けた女性の表情が特に印象に残った。

畔田桃子「まんじゅうこわい」



中村晋也「善財童子」創立百周年記念賞。

両手を合わせて合掌する童子の立像である。その無垢な表情が実に中村作品らしい人間的魅力を生み出している。仏教の説話に登場する、悟りを開くために熱心に修行を続けるその姿を柔らかに、また親しみを込めて造形している。

中村晋也「善財童子」創立百周年記念賞



楠元香代子「MARIA」。中年の女性の顔が象^{かたど}られている。西洋人のようなだ。どこかじわじわと、例えば暗闇の中から現れたかのようなイメージの作り方が面白いと思った。

楠元香代子「MARIA」

